

■ 市長から市民のみなさんへ

市長 白井博文



■ 若い職員との座談会を開きました

この春採用した職員との座談会に、企業局を除く21名全員が出席しました。過日、霞ヶ関から国家公務員上級職で採用された2名（外務省と総務省）が、地方自治研修の目的で来庁した際にも集まってくれたメンバーです。その折は、行政の最前線（基礎自治体）の実情（苦労話）を少しでも聞いてもらおうと、みなさん一人ひとりに新人なりの仕事や職場の様子を話してもらいました。今回は人事課が各人から事前にレポートの提出を受けていました。テーマは、

- ①山陽小野田市職員になろうと思ったきっかけ
- ②市職員となって仕事をしてきて思うこと
- ③市職員として将来目指したいこと

の3つでした。通読し、懇談して感じたのは、一人ひとりの資質と自覚のレベルの高さでした。近年不況が続く就職（就職活動）も大変とのこと。しかし、求人側にとっては、選抜の対象者が増え、それだけに優秀な人材を確保できる絶好のチャンスです。人事課が、これまでの採用試験に工夫を凝らし、マニュアルを大幅に改訂した努力の効果もあるせいか、どの出席者にも将来の市役所を担ってくれそうなオーラ（雰囲気）を感じ、大変満足させてもらいました。

■ 市職員に対する不当行為について

近年は極端な事例はなくなりましたが、行政の全体からすれば一部のことはとはいえ、まだまだ困っている事例が後を絶ちません。全職員を対象にしたアンケートによると、「1時間以上も帰らない」「大声を出す」「本や書類を投げつ

ける」「タバコの火を飛ばす」「医師、看護師に対する暴力・セクハラ」「会議の席での恫喝」などの事例が報告されています。組織的な対応により解決できそうなケースもありますが、最近はその不当行為の原因が本人の認知症その他、心の病気によるのではないかと疑われるものも多く、その対策に苦慮しています。この秋には県警の協力を得て、2度の職員研修を実施する予定です。

■ 要望の実現について

行政に対する要望は多種多様です。目的・規模・財源からして、実現可能なものもあれば、到底不可能なもの、年次計画で取り組めばなんとかなるかもしれないもの、その他様々です。過日、有帆公民館での「対話の日」で、出席者から「現在公民館周辺の道路工事が進行中だが、完成後はどのようなになるのか」という質問がありました。私も説明できず、早速、担当課が県に要望したところ、完成後のイメージ図を近く工事現場付近に設置してくれることになりました。「地域のみなさん方でなんとかなりませんか」とか、「官民協働でお願いしてもよろしいでしょうか」となることもありましたが、要望はためらうことなくどうぞお申し出ください。

対話の日	9月27日(木) 19:00 ~
	市民館

※ 8月27日に開催する予定でした「対話の日」は延期しました。開催日は改めてお知らせします。みなさんには大変ご迷惑をおかけいたしました。